

我孫子市消費者の会

お知らせ

2009年1月21日 第34期 No.10-391号
事務局 〒270-1143 我孫子市天王台3-7-1-201 和田三千代方 TEL 04-7183-1434
<http://www.abikoshi-syouthisyanokai.com/>

新年おめでとうございます

アメリカと関連して世界中が激動しています。派遣・臨時の職員をバタバタと切れる経営者、路頭に迷う人をテレビで見るつらさ。これからが本当に不安になります。私たちに何ができるのかわかりませんが、せめて心の持ち方は曲げないで、この1年も力を合わせて生きたいと思えます。よろしく。

消費生活展のご案内

「あなたのエコが地球を救う

～すぐ始めよう 孫・子のために～」

2月14日(土)・15日(日)

10:30～16:30 あびこ市民プラザ

先月チラシを配布しましたように、参加団体も増え、にぎやかに開かれます。各団体が地球を救う生活の提案をします。あなたの実践も教えてください。目先の経済だけに振り回されない、未来にも責任を持つ私たちの生活を共有したいものです。

あびこ型地産地消推進協議会の農家の方の野菜もおみやげに出ます。古歯ブラシとアクリル毛糸で作るミニはたき、古ストッキングの洗濯ネットを作る指導もします。中央の舞台ではミニ講習会やパネルシアターも開きます。どうぞお誘い合わせご参加ください。



バス見学会28名で

家電リサイクル工場の見学は28名のお申し込みがありました。お忘れなくご参加ください。

日時 21年1月27日(火)

8時45分集合

集合場所ふれあい広場前(我孫子駅北口)

費用 昼食代1600円

記念館 400円(団体割引)

2月定例会にご参加を

2月2日(月) 13:30～16:00

我孫子南近隣センター8F調理室

定例勉強会 小物用アクリルはたきを作る

古歯ブラシをお持ちください。生活展でお客様と作るために、誰でもができるようになりましょう。

ご家庭に古歯ブラシが何本かありましたら、定例会前に、ご近所の役員・運営委員等にお届けください。定例会欠席の場合は何らかの方法で、出席者の手に渡ようご協力ください。生活展で使います。

市民活動フェア

～世代をこえて♪ ボランシカ～

2月28日(土)～3月1日(日)

10時～16時

アビスタ・けやきプラザ・湖北地区公民館

今年は80を超える団体の参加があり、3会場に分かれます。消費者の会はアビスタのまちづくり分科会に参加し、パネルシアター「お米を食べて田んぼを守ろう」の上

演や、パネル展示などを行います。全日制我孫子市民（定年）になられた方達がとても元気に活動していらっしゃいます。ご家族でご参加ください。プログラムを配布します。

3月定例会の予告

3月2日（月）13:30～16:00

我孫子南近隣センター8F調理室

定例勉強会 1年間の活動の反省等

今年度の活動として「レジ袋の無料配布中止を働きかけましたが、まだ実現していません。全国的にも14%の実現率とテレビが伝えています。皆さんのお知恵を是非。

オレオレ詐欺は次々新手

あまりにもひどい被害続出で、国を挙げて撲滅作戦を繰り広げていますが、次々に新手の方法を考えて、だまし続けています。昨年は被害額276億円と聞いて、ビックリ。この頃は銀行へ振り込むのではなく、郵便で送れ、取りに行く、もっと手の込んだものなども出てきています。

他人事と思わず、テレビなどで報じている手口も知り、誘いに乗らないようにしましょう。家族のきずなを密にするのが一番のようです。絶対に一人で判断しないこと。誰かに相談することで被害を防ぎましょう。

火災による死者多数

年末年始、火災による痛ましい死者が多く出ました。火災警報器がついていなかったり、ついていても子どもだけだったりでは何もできなかったでしょうが、人が死ぬような状況になるのは、現代の生活物資の特徴でもあります。

会では昨年勉強会を開きました。寝具や衣類、建築材に含まれる化学物質の多くが有害ガスを多くだし、寝ている間にそれを吸って動けない状態になってしまうのが、一番の原因でしょう。火を出さないよう細心の注意を払うのはもちろんですが、警報器はやはり設置しましょう。まだの方があつたら、一刻も早くつけられることをお勧めします。

遺伝子組換えについて

このことは何回か書きました。国は何とか消費者を納得させたいのでしょうか、昨年から千葉県でも農政事務所、農林水産部、健康福祉課主催で、それぞれタウンミーティングやリスクコミュニケーションが開かれました。国側の言い分は一言でいえば、「安全である」というものです。皆さんはどうお考えですか。

①農林水産部主催の会の中で、EUでは推進ではなく、調整中で、共存ルールを探っているが、加盟国間に温度差があつて、決定には至っていない、ということが分かりました。日本は初めて「表示」というシステムを作りましたが、油やしょうゆのように、検証方法がない（製品を調べてもわからない）ものは表示されていません。EUではトレーサビリティ方式で、使ったものには表示をしているということも分かりました。選ぶ権利のため、私たちの課題でもあると思いました。

②健康福祉部のリスクコミュニケーションでは、事前の勉強会で食品安全委員会の方から話を聞いた参加者が3つの班に分かれて、その感想などを報告しました。会員の竹中真里子さんが、「大いに不安」を感じているグループの事前勉強会での討議内容を、パワーポイントを使って報告されました。

「良いものを安く提供できるという説明に同意できない。誰にとっての良いもの？食品の安全性は、そのものの毒性評価だけではなく、作られる課程や環境への影響なども含めて考えるべき。交雑も心配」などを発表され、「組み換えで何が起きるかわからない。安全性に疑問を投げかける多くの実験・研究例が報告されている。地球規模でわが家の食卓を考えたい。地産地消で安心な食材を選ぶ」と結ばれ、会場から大きな拍手がありました。

質問の時間で「組換え作物をどこの国が一番食べているのか」という加藤マリ子さんの質問に、講師は「日本」と答えられました。

その後、遺伝子組換えの種子を作っている多国籍企業が、日本の種子の組換えのための、日本の足場となる事業所を、我孫子に作ったという情報が入ってきました。さて・・・。